

# こころる便り

第229号

平成31年4月

〒679-4343  
兵庫県たつの市新宮町大屋六六八-12  
株式会社 新宮運送グループ  
代表/木南 一志  
kininami@shingoo.co.jp  
電話 079-1-755-1212

## コミュニケーション

新年度の始まりです。新しい年度は来月の新元号で大きく変わってきます。しかし、変えてはならないものをこの機会にしっかりと認識することも大切な準備の一つでもあります。

節目を迎えるにあたって、これまでの時代を振り返ることや日本の歴史を自分なりに学んでいくことが必要です。テレビやマスコミが垂れ流しのように情報を生み出していますが、それは信じるに値するものであるかどうか学んでいなくては判断もできません。自ら学ぶことがどれほど大事なことであるかは、命と向き合った時にハッキリとわかります。自分にとって大切な人が目の前で倒れて、助けが必要な時に「AEDがあれば助かる」と咄嗟に判断できるのは日頃訓練されていたり、周りの人からの情報であったり、という経験値が判断基準となります。何も学んでいないとしたならば、手も足も出ない呆然と立ち尽くすだけとなってしまいます。これは、緊急時だけに限りません。職場でも同じことが言えるのです。

仕事の技術力は経験とともに磨かれていきますが、実はその陰には、一緒に仕事をする仲間が存在が欠かせないものであるということに気づいていただきたいのです。自分が好きな仕事でやりがいもあるとしても、周りの人が

悪口や陰口ばかりを言い続けるといつの間にか仕事そのものが嫌になってしまいます。逆に、仕事にそんな魅力を感じていなかったのに周りのみんなの熱い思いが伝播してこれしかない！と思えるようになったなどという話もあるものです。つまり、人とのコミュニケーションが大きく影響を与えているのです。

コミュニケーションとは、通信、交流、意志疎通とも訳されますが、良いものと悪いもの二つに分けることができます。良いものだけを発信できればいいのですが、現実はその簡単にはいきません。聞きたくなくても嫌なことでも聞かなくてはなりませんし、悪い情報があったおかげで準備ができたということもあるものです。悪い情報に振り回されるのではなく、悪い情報から発想して良い情報に転換していくこと。これが本当の意味で磨かれた人といえるのではないかと思います。成長していく過程で必要なことは、振り回されることなく自分らしさを見つけていくことであると考えています。

自分にしかできない役割を見つけることができる、汚れたところを綺麗にする掃除と同じことなのだと実感することができるようになるはずですよ。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拜

## 尋常小學校修身書 卷五 兒童用

### 第十九課 朋友

新井白石は九歳の時から、日課を立てて、少しの暇でもむだにせず、一生けんめいに、學業に勵みました。後、木下順庵といふ名高い學者の弟子となつてからも、貧苦をこらへて、益、勉強したので、日に／＼學問が深くまりました。

或時、順庵は白石を加賀侯に推薦しようと思つて、そのことを白石に告げました。其の頃、やはり順庵の弟子で岡島石梁といふ



人がありました。その事を聞いて、白石に、「加賀は私の郷里で、家には年よつた母がたつた一人、私の歸るのを待つてゐる。もし先生の御

推薦で、私に加賀侯に仕へることが出来たら、母もどんなに喜ぶだらう。」と言ひました。白石はそれを聞くとすぐに、順庵のところへ行き、其のわけを話して、「私の仕へますのは、どこでもよろしうございませう。どうか私の代りに、岡島を加賀へ御推薦下さい。」と願ひました。順庵は白石が友情に厚いのに感心して、その通りにしました。二年程たつて、白石は順庵の推薦で、甲斐侯に仕へることになりました。侯が後に將軍となつてから、重く用ひられました。

NPO法人 愛ランド様の協力で障書を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせて頂いておられます。